

1 単元名 マット運動

2 単元について

(1) 教師と教材

器械運動はマット、跳び箱、鉄棒を使った「技」に取り組んだり、それらの技ができるようになったりしたときに楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。また、より困難な条件のもとでできるようになったり、よりダイナミックで美しい動きができるようになったりする楽しさや喜びを味わえる運動でもある。本単元のマット運動は、多くの技を連続的に表現することが可能であり、一人一人が自分のできる技を組み合わせることで自分の連続技として創造していくことが可能である。また前後左右に回転したり、バランスをとったりするなど、技を完成させるまでに多くの運動が必要であり、リズム感、腕支持感覚、ジャンプ力、体重移動感覚、突き放し感覚、逆さ感覚を促進する上でも有効な運動であり、できそうな技に挑戦させる中で、これらの運動感覚を数多く体験させたいと考える。そして、本時の学習では、一人一人が自分のできる技を高めながら連続技として完成させていく。そして、その技を生かしながら集団で取り組み、調子を合わせて演技するような活動に発展させていくことにした。そうすることで、これまで体験してきたマット運動とはひと味違う楽しみを味わうことができると考える。

(2) 子どもと教師

本校では体育科における育てたい資質・能力を次のようにとらえている。

発達段階に応じた運動実践により、たくましい心身を育てる。

運動の特性に触れながら課題を解決する力

公正な態度や互いに協力して責任を果たす態度

健康や安全に留意して運動することができる態度

これを受けてそれぞれの単元で育てていきたい資質・能力をより具体的にしながら学習を進めてきている。子どもたちは「マット遊び」から「マット運動」の学習を通して、自分のできる技の習得状況やできそうな技、またある程度の連続技を経験し、学習における見通しをもつことができるようになってきている。しかし、また運動会では、初めて組体操を経験し、友達と力を合わせて技を作り上げることに喜びを見出している。練習の過程でブリッジや補助倒立なども経験してきており、マット運動につなげ、技を発展させることも可能である。しかし、技の習得状況は一人一人に違いがあり、学年が進むにつれ、その差も大きくなってきている。後転や側方倒立回転、またそれらの発展技などはあまり経験してきていないので、技に対するイメージやポイントなどをしっかり意識させ、こつが分かった・できなかった技ができるようになったという満足感や成就感を味わわせるようにしていきたい。

(3) 子どもと教材

本学級の児童(男子18名、女子19名、計37名)は体育の学習に大いに意欲や関心をもっており、体育の時間を楽しみにしている児童が多い。アンケート調査によると、体育の学習が好きと答えたのは35名で、器械運動が好きと答えたのは31名である。また、「今までできなかった技ができるようになること」や「いろいろな技に挑戦すること」、「友達と

一緒に教え合うこと」に魅力を感じている。マット運動では前転に抵抗なく取り組み、安定した動作でスムーズに回ることでできる児童も数多く見られる。また、新しい技に挑戦しようと意欲をもって取り組む児童も多い。

本単元では、全員が楽しく主体的に学習に参加できるよう学習過程を工夫していきたい。そのために児童一人一人のもつ運動能力や到達段階を見極め、課題達成のために必要な場を設定し、自分のめあてに沿った適切な課題を選択できるよう支援していきたい。そのために、自分がどのような動きをめざしているのか具体的な姿をイメージできるようにそれぞれの技に対して、動きの見本カードを用意し、見通しをもって運動できるようにしていきたい。また技を完成させるために発見したコツや運動感覚を言葉として表現させることにより、よりはっきり課題を意識させながら、練習できるようにしていきたい。また、単元の構成として、単元の前半は「個々の力を伸ばし、連続技に挑戦すること」をねらいとし、後半は「一人一人の技を組み合わせて、グループ演技を楽しむこと」をねらいとしていく。仲間とともにできる技を組み合わせて、自分たちだけの連続技を創作する際にも友達の技をよく見て、互いに教え合い、励まし合いながら練習することにより、児童一人一人が楽しんでマット運動に取り組むことができると考える。

3 単元目標

できない技ができるようになったり、友達と動きを合わせたりする喜びを味わうとともに、一人一人の子どもがかかわり合って学習する楽しさやマット運動のもつ楽しさを体感することができる。 (関心・意欲・態度)

自己の能力に適した技や運動を選び、その技に適した練習の場や仕方を選んだり、友達と動きを合わせたりすることができる。 (思考・判断)

今できる技を安定した動作で行うことができる。また、腕支持感覚、逆さ感覚等の器械運動に必要な力を高めることができる。 (技能)

4 学習計画 全8時間

1	2	3	4	5	6(本時)	7	8
<p>オリエンテーション</p> <p>・学習の進め方を知る。</p> <p>・安全についての約束やマナーを理解する。</p> <p>・いろいろな技を知り、今できる技を楽しむ。</p>	<p>体ほぐしをする。</p> <p>ねらい</p> <p>今できる技をより上手にしたりできそうな技に挑戦したりして楽しむ。</p> <p>めあて</p> <p>自分の今できる技をより上手にしたり組み合わせたりして楽しむ。</p> <p>めあて</p> <p>練習の仕方を工夫して、できそうな技に挑戦する。</p>			<p>体ほぐしをする。</p> <p>ねらい</p> <p>グループの友達と動きを合わせながら集団マットに挑戦する。</p> <p>めあて</p> <p>練習の仕方を工夫して、自分の今できる技のできばえを高める。</p> <p>めあて</p> <p>友達と動きを合わせて集団マットに挑戦して楽しむ。</p>			<p>集団マットの発表会</p> <p>学習のまとめ</p>

評価計画表

月	内容の 区分	時	学習事項	目 標		観 点				
				内 容 目 標	行 動 目 標	関	思	技		
12	単 元 名 マット運動									
<p>単元の目標</p> <p>できない技ができるようになったり，友達と動きを合わせたりする喜びを味わうとともに，一人一人の子どもがかかり合って学習する楽しさやマット運動のもつ楽しさを体感することができる。 (関心・意欲・態度)</p> <p>自己の能力に適した技や運動を選び，その技に適した練習の場や仕方を選んだり，友達と動きを合わせたりすることができる。 (思考・判断)</p> <p>今できる技を安定した動作で行うことができる。また，腕支持感覚，逆さ感覚等の器械運動に必要な力を高めることができる。 (技能)</p>										
オリエンテーション	ねらい 1	8	今できる技をより上手にしたりできそうな技に挑戦したりして楽しむ。							
			準備をする。 自分の今できる技をより上手にしたり組み合わせたりして楽しむ。	グループの仲間と協力して準備をする。 (行動) ルールを守り，安全に気をつけてマット運動をしようとする。(行動・カード) うまくできるコツについて考えながら，マット運動ができる。(カード)						
			グループの友達と動きを合わせながら集団マットに挑戦する。							
ねらい 2			ポイントを見つめながらマット運動を楽しむ。 友達と動きを合わせて集団マットに挑戦して楽しむ。	運動の心地よさを感じるとともに，技が高まったことを友達と認め合うことができる。(行動・カード) 自分やグループの力にあつためあてをもち，仲間と教え合いながらマット運動ができる。(行動) 友達とリズムやタイミングを合わせて，安定した動作でマット運動に挑戦することができる。(行動・発表) 友達の動きを見て，できばえを判断することができる。(行動・発言)						
			学習のまとめと後片付け	グループの仲間と協力して後片付けをする。						
備考	マット・セーフティーマット・踏切板・跳び箱・学習カード・CDラジカセ									